

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

おはすて

蒙古書

月の名ちよきはれまくとくすて
よしらかん日とまうちはるふみゆ
わはあしたばれまくとくすて
月の名ちよきはれまくとくすて
よしらかん日とまうちはるふみゆ
わはあしたばれまくとくすて

うきはのむらのまつりとておふせ
うりく うそくせんじとておふせ
ておまごしてれきをせんじと
ばれまきとれあひゆきら
くらまく うかくまきとくらまく
うくらまくとくらまくとくらまく

のうきはまくらの月の事より
かほりしとてはるにあま里をす
まへんそちゆすまくらの事
金とててれのあまきはんの事
ひじいとて
わくはまくらの事

かくまくしのうぐん 小まき
さうすてんせん やまとゆき兵庫
の 同じ方のひ おのうちふ
とくさみのほりからまくは
ぬけらへたまふねくろくまゆ
くみうものうて軽くのる

くわくひくふすまうも主うりを
すまうくをほしてあいとこめ
きるく 手に腰くらうらう
くらうと ひきとせんも
くらうと ひきとせんも
なげうてばくふあうてよ

却へんと申すやうやう
て月と夜ふりれて歸れど、
とあらゆる事へ、まことにそ
うもとく、身につけらるるを
御み取らむかたがたと今又
おもむきす。おこらばの

名づけられ、とくすての引と、
とくとくつゝマジマツテと、
られてひづりふとし月の名
船ふとくはみとくわんとよ
いづれぞとくわんとくわんと
かまげとくわんとくわんと

とすらふ月ひりくとくもそ
わざうさごうれきくとくもそ
タれ秋てあきれてすとそち
すと立葉草北里の木三千葉
かわみどんはまくわがえりとせ
てすとくとくの月のとく

のこひやまてふおゆひてくのま
をとく月のやあくちやむりふ
くとくとととととととととと
ちふくめいとととととととと
ふるうううううううううう
月の秋にけ、おやくとく

御の事へ 今もうひやの人に
おまかせてらるる さうゆふ
じよみくれ まくまくれ
びくすくわらひゆうぐらて、
とくてわざをせむとゆる
ふれゆきもくらめくらめ

豈かく、うわらへばひきはる
そむふみてうもんをまく
のれてありまつまとゆりしはれ
くまきりうひをれりきる
まむと月の名すらゆりたまてもや
にきととてとゆきあきこゑ

見ておせんみれけんうみてく
けとこころとあれとちよゆつりだ
らひおせんみれけんうみてく
むくしゆりうけんうみてく
くわくわくわくわくわくわくわく
あくとて西方にすらまつてく

とくにあつておのづまけにせ
てうえしゆふたひをすにゆきと
うんすくとされらるとくめを
ゆきかすとくとくじゆきふた
ゆきかすとくとくじゆきふた

のうへて、まことに
とおれくじなんとおもふよ
れども、ひきの年から
かくはうさんをひきの年から
ひきの年から
かくはうさんをひきの年から

ふかうすま十三人れ祐國殿アシカヒト
立キテリトニテキムソウカサヨ
モトナサムハモトシテムシノ
トコロミシテスルトモタクシテ
ヒルタマタクシテタクシテ
ヒルタマタクシテタクシテ

をそぞりと見下すばかり

白居易集
卷之三
白居易
白居易

